

2021年(R3年)

3月

No. 348

くらむぼんはつしゅう

(題名: 齋藤 宗山)



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムボ) http://hitoha-fukushi.com (メール) honbu@hitoha-fukushi.com

寒さは大敵ですが、だいぶ私の行動もスムーズになってきたように思います。何より皆さん方からの励ましが、大きな役割を果たしていることは間違いありません。あらためて感謝いたします。

過日、貞近さんからハガキをいただきました。貞近さんと出会って三十数年になりますが、初めての事です。貞近さんは「機械がわしの仕事をと、てしもうた」とつぶやいているように、手仕事なら誰にも負けないくらいやり遂げてしまいます。しかし、年齢91になり、ひとはき、の長老ですから、貞近さんの少年期にはふさわしい教育を受ける機会はなかったらうと思います。それゆえ今までは、文字を書くということは貞近さんの生活にはありませんでした。その貞近さんが工房の職員のサポートを受けながらも自らの意思で私にハガキを書こうと思立ったことに対して、驚きと感激をおぼえました。正直なところハガキの文章は工房の職員のサポートがなければ判読が難しい字体ではありますが、「わたしはまいにちげんきでくらしています」と書かれてありました。「わたしは、90をすぎても元気で生活しておるんで、まだ70そらのあんたも、病気とうまい具合に付き合いながら、自分の人生をしっかりと生きていこうぜ。」そういう思いが伝わってきました。

貞近さんだけでなく、ひとはを利用して人たちが自分らしさを発揮できることを願わずにはおれません。
(理事長 寺尾 文尚)

おしらせ

くらむぼんが、1月よりソフトバンク吉田店隣へ移転しました。4月からの定員増に向けて部屋数も広さも大幅に増え、より過ごしやすい空間づくりをおこなっています。

35周年にやせて、インタビューをしました!

○ 自治会 宗山 義美 さん

ひとはに入ってから14年くらい経ちます。垣野内さんと同じ時に入ったんですよ。ずと農園です。おでかけするのが楽しいです。買い物やボウリング。グループホームは皆ええ人ですよ。休みの日はCDを聴きます。萩野目洋子とか。古代米の仕分けが上手いと言われます。築城さんを最近見んけど、休んどってかね。(インタビュー時テレワーク中であった) 青山さんと話をします。ええ人が入、ちった。

○ ひとはスタッフ 岡村 ツヤコ さん

前の職場を辞めて、失業保険が切れる頃にひとはの募集を見つけてねえ。ホームがちょうど建、た時でタイミングが良かったんよ。朝のパートとしてね。福祉の世界、知的な障がいのある人と関わったことがないけえ、こういう世界があるんかあ、と衝撃を受けたのを覚えとるよ。ひとはもじゃけど、障がいのある人が働く施設、過ごす施設ができて親御さんは助か、ちったと思うよ。私が若かった頃には障がい者の施設はなかったけえね(文尚さんと同じく、昭和21年生まれ)。ホームにいるときからは本当に頑張っているのがよくわかるよ。私は今も昔も変わらず「明るさと元気」でや、ていくけえね。

「メロディーに誘われて！」

ひ

ホーム朝9:15。ラジオ体操のメロディーが流れます。

「やろう」と沖本さん(声だけですが)

田丸先生(前で手本を示します)

中田リーダー(盛り上げます)

橋本(陰の)リーダー(ただ笑ってます)

水附美江さん(田丸先生の代理をします)

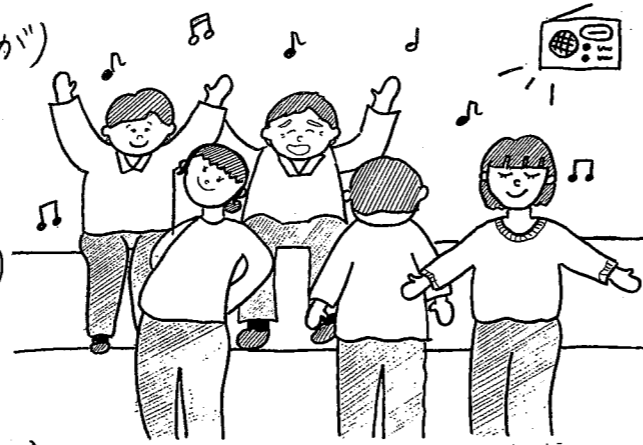


イラスト: 森末はりの

は

三上さん(カバンを背にしてにこにこ)

高森さん(ダンスのような体操です)

外輪さん(跳びはねる。頭の中はオロナミンCでいっぱい)

佐々木さん、吉高さん、増長さん、高原さん

最後に大久保さん(座って腕を回していた、いなくなると寂しいです)

体操を始めて早3年。することが当たり前。習慣化、すごいですね。

(共同ホームひとは 大畠茂之)

「もう会えないのかなあ」

初めて「ひとは」に行った時から20年以上。「おねえちゃん」と呼んでくれていた。

いつも会うと初日は「あ、ちいけ!バカ!」だった。二人で散歩に行き、帰りに「内緒だよ」とアイスクリームを半分こして食べた。その時、ひとはの車を「どこに行くんたろう?」と二人で見送っていたが、帰りが遅い私たちの捜索隊だった。ひとはに戻ったら、愛さんの好きなスタッフがサッカーをしていて、私の手を思い切り押して「じゃーさん」と呼んで走って行った。恋の力はすごいと唖然とした。

最後に会った時「私のお母さん死んじゃったのよ。一人になっちゃったよ。愛さんのお母さんも死んだよね」「おかあさん、しんた」愛さんは、母が亡くなって私が哀しいんだということを理解してくれた。ガサガサになった唇にリップを塗ってあげるよと言ったらあごを差し出してニコニコしてた。

もう会えないのかあ。さみしいな。

ありがとう。さようなら 愛さん。



(長崎県在住 後援会員 パンタイム 村田美穂さんより)



あたらしく入ったひとはの仲間たち

きらら

なまえ
川上 寿子

所属: 就労センターあぷ!

好きなこと ♪-♪-♪-♪

楽しみたい。

眠ることです。

ささき亭のお弁当配達で、久々に本田玲二さんと会った。「お元気ですか」と声をかけると「腰が痛い。足も痛い」と、変わらない早口の調子。「また来るけえ」と言っ、車に戻る後、ふと弟の文雄さんの面影が重なった。久々に会ったからそう見えたのか、血のつながりか。ホームでの日々が思い出された。

(白井 くみこ)

編集後記

「また行こうや！」

日

工房のみんなが楽しみにしている仕事の一つ、広島市内配達。きらら2人

との3人旅。配達先でいろいろな人に会ったり、お昼に美味しいものを食べたり、コンビニのレジで若い女性に見とれていたり... などのハフニングも。そんな非日常をみんなと過ごせるとても楽しい時間である。

農園の垣野内さんも楽しみにしている一人で、私の顔を見るたび「市内はいつ行くん?」と声をかけてくれる。「コロナが落ち着いたら行こうね。」と答えると

「いでちゃん、また行こうや!」と笑顔で返ってくる。

一緒に大好きなラーメンを食べに行ける日がまた来ることを信じて、

今日も一人で配達に向かう。明けぬ夜は長い。

垣野内さん、また行こうや! (ひとは工房 出田 広志)

々